



銀座の言語景観4

日本大学文理学部国文学科
日本語学基礎演習2

- はじめに
- 銀座における臨時的掲示の言語使用
- ファストファッション店の言語サービスの違い
- 日本食店からみた銀座
- 店舗入り口付近の掲示類からみた銀座
- 飲食チェーン店の言語使用—銀座と池袋を比べて—
- 「銀座」表記の影響—エリアによる違い—
- 中央通りの寿司店—東京方面と新橋方面の差—
- おわりに

 検索

第6章 飲食チェーン店の言語使用—銀座と池袋を比べて—

0313112 楠井 愛美

0313109 亀尾久瑠美

0313082 布施加奈子

[PDF 調査マニュアル&チェックシート \(PDF\)](#)

6.1.調査概要

銀座と池袋両方にある飲食チェーンの中で、全国店舗数が上位5位の店舗を調査対象とし、看板・臨時的掲示物・外観を調査する。店舗場所や店のジャンル（喫茶店・ファストフード・居酒屋）によって言語の使われ方に違いがあるかを調べる。

6.2.喫茶店における個別分析とその考察（楠井愛美）

6.3.ファストフードにおける個別分析とその考察（亀尾久瑠美）

6.4.居酒屋における個別分析とその考察（布施加奈子）

6.5.チェーン店の使用言語からみた銀座

喫茶店、ファストフード、居酒屋共に、調査する前に考えていたよりも銀座・池袋での使用言語の違いが少なかった。リンガーハット、わんでは外国語メニューが置かれていたが、これらは銀座店、池袋店両方に置かれていた。これはどちらも外国人の多い町という共通点からであると考えられる。店舗場所の違いよりもチェーン店ごとの違いの方が顕著にみられることが多く、店舗ごとに個性を出すよりも統一している店がほとんどだが、わんのように地域に根差した店づくりを方針とする企業もあった。喫茶店は唯一の店にも中国語・韓国語の使用が見られず、外国人向けメニューも置いていなかったが、これは他のファストフード、居酒屋と比べ商品がわかりやすい、また商品そのものを見て注文できることが多いためではないか。また、喫茶店で使われる言葉（コーヒーやミルク、スモールなど）は英語が多く、外国人でも伝えやすいことも要因と考えられる。

参考サイト

タリーズコーヒー（日本法人）公式サイト

<http://www.tullys.co.jp/>

スターバックスコーヒージャパン

<http://www.starbucks.co.jp/>

フロント

<http://www.pronto.co.jp/>

株式会社シャノアール

<http://chatnoir-company.com/chatnoir/html/index.html>

株式会社ドトルコーヒー

<http://www.doutor.co.jp/>

サンマルクカフェ

<http://www.saint-marc-hd.com/cafe/>

銀座ルノアール

<http://www.ginza-renoir.co.jp/>

オーイズミフーズ ホームページ

<http://www.oizumifoods.co.jp/recruiting/>

ぐるなび ホームページ

<http://r.gnavi.co.jp/sp/>